

経営比較分析表（令和3年度決算）

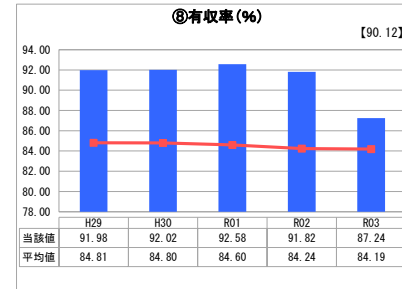
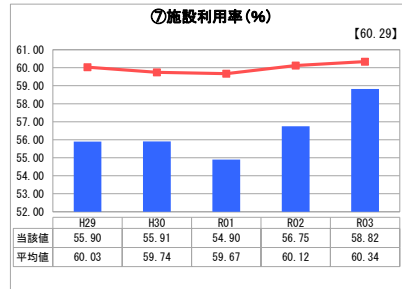
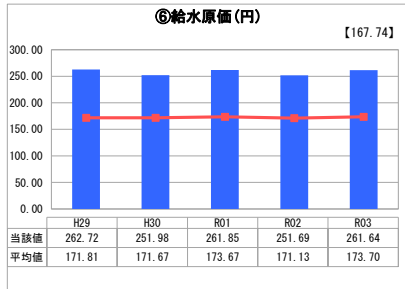
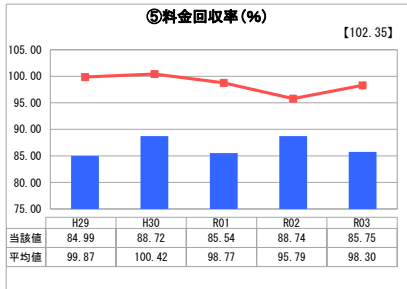
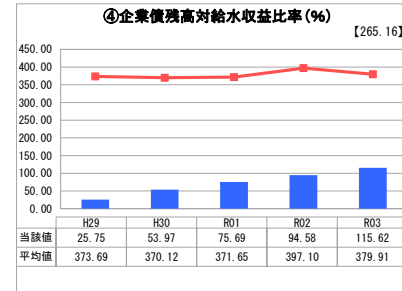
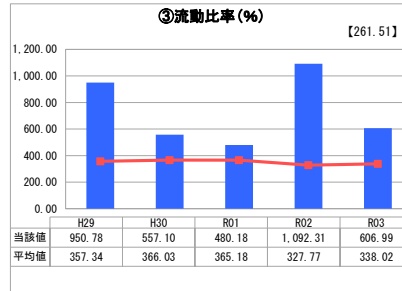
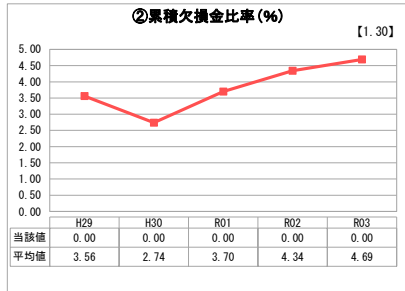
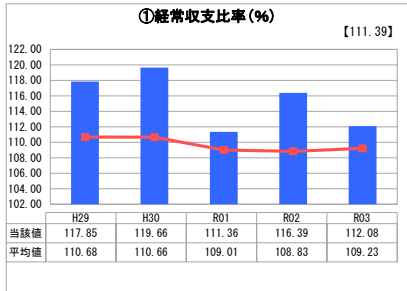
千葉県 八匠水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	85.75	89.84	4,532	

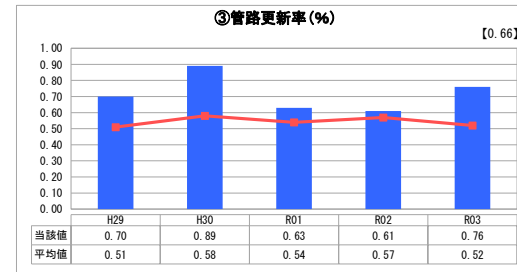
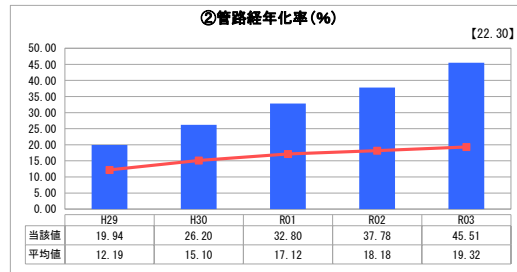
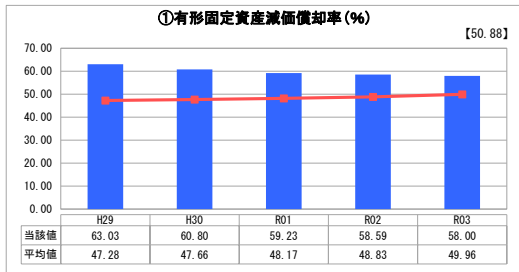
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
39,351	119.46	329.41

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・令和3年度の経常収支比率は、112.08%となり、前年度と比較して4.31%減少している。これは、使用量の多い大口ユーザーへの給水が終了したことにより、給水収益が減少したことと、修繕費が増加したこと等が原因と考えられる。

・累積欠損比率については、累積欠損金が出ていないため、昨年度と同様に0%である。

・流動比率及び企業債残高対給水収益比率については、他団体の平均値と比較して良好な数値であるため、余剰資金や資金調達能力という面で多少の余裕がある状態といえる。

・料金回収率は、85.75%で他団体平均値と比較して低い水準となっている。これは、給水原価が他団体よりも高水準であることが主な要因である。

・施設利用率は58.82%であり、今後の施設更新の際には、ダウンサイジングを検討する余地がある。
・有収率は、他団体の平均値と同様の水準であるため、比較的安定した水の供給ができていていると思われる。

2. 老朽化の状況について

・有形固定資産減価償却率は、近年減少傾向にある。これは、平成29年より配水管更新工事が始まったからであり、この傾向は今後もしばらく継続するものと考えられる。

・管路経年化率は、創設期に布設した配水管が近年一気に耐用年数を迎えていることにより、他団体平均値を大きく上回る結果になっている。

・管路更新率は、0.76%で他団体平均値を上回っている。今後も更新工事を実施していき、更新率の向上に努めたい。

全体総括

・料金回収率が100%を割っていることから、水道料金の値上げや費用の削減を進めていく必要がある。しかし、水道料金については、既に他団体と比較して高水準であることから、値上げは困難な状況である。費用についても、その80%を受水費と減価償却費で占めているため、これ以上の大幅な削減は難しいのが現状である。そのため、過年度に引き続き受水費の引き下げ要望をしていくとともに、経営の効率化を図り、費用の削減を実現することが当面の目標になる。
・管路経年化率は、今後も上昇していく見込みであるため、国庫補助金や企業債を活用しつつ漸く更新工事を実施していくことが必要である。